

批判的リテラシー論に基づく社会科授業作りの方法

—ビル・ビゲローの授業実践を手がかりにして—

藤瀬泰司

The Method of Developing Social Studies Lessons based on Critical Literacy Theory: Analyzing How Bill Bigelow Taught Students About Columbus

Taiji FUJISE

(Received by October 1, 2013)

The purpose of this article is to clarify the method of using textbook to enhance citizenship by analyzing how Bill Bigelow taught Columbus based on critical literacy theory. The article shows that critical literacy is the theory to develop the lesson that makes students understand social studies textbook as political practice which produces or changes injustice in the world, by instructing the procedure of critiquing texts. Therefore, if we develop social studies lesson based on this theory, we can overcome the problem that students tend to believe that social studies textbook is absolutely true and neutral knowledge.

Key words : textbook, citizenship, critical literacy, social issues, Christopher Columbus

I. はじめに

本稿の目的は、批判的リテラシー論に基づくビル・ビゲローの授業実践を分析することによって、教科書を活用して開かれた国家・社会の形成者を育成する方法を具体的に示すことである。

教養主義に基づく我が国の社会科では、教科書記述を中立公平な客観的真理として学習させる授業が一般的によく作られ実践されている。しかしながら、このような授業作りでは、民主的な国家・社会の形成者を育成することは今や難しくなりつつある。なぜなら、価値観の多様化が進む今日、一著作物にすぎない教科書が誰に対しても中立で公平な客観的真理であることは、ほとんどありえないからである¹⁾。価値多元社会が本格的に到来した今、教養主義の授業作りに身を委ねては、閉ざされた国家・社会の形成者を育成できても、開かれた国家・社会の形成者を育成することはできないわけである。

こうした現行の社会科が抱える問題点を克服するために、社会問題科の立場から優れた研究成果が蓄積されてきた。例えば、小原友行の合理的意思決定論²⁾や溝口和宏の開かれた価値観形成論³⁾、池野範男の市民社会科論⁴⁾が代表的であろう⁵⁾。これらの研究は、い

ずれも社会問題を教材に取り上げ、選択や判断、政策や制度の多様なあり方を子どもに議論させる社会科授業作りの方法を提起している。そのため、これらの方法に基づいて授業を開発すれば、既存の国家や社会の現実を無批判に受容させるのではなく、そのよりよいあり方を議論させることができるため、開かれた国家・社会の形成者を育成できる。

しかしながら、社会問題科は、教科書の使用を前提にしない点で限界があるのではないだろうか⁶⁾。日々の授業作りでは、社会問題よりも教科書記述を教材に取り上げることが圧倒的に多い。そのため、日々の授業実践を前提にして開かれた国家・社会の形成者を育成しようとするならば、教科書記述を教材に取り上げ、その記述の中立性・公平性を子どもに検討させる必要がある。そうすれば、教科書記述が必ずしも中立公平な客観的真理ではないことを学習させ、そのあり方を再考させることができるため、開かれた国家・社会の形成者をよりよく育成することができる。社会問題科は、教科書記述を教材に取り上げず、その記述の中立性・公平性を検討させない点に限界があるわけである。

それでは、教科書記述の中立性・公平性を検討させるためには、どうすればよいだろうか。本稿では、その答えを、批判的リテラシー論に基づく社会科授業作りの中に見出してみたい。批判的リテラシー論とは、

テキストの読み書きを日常生活に最低限必要な基礎的
技能とみなし、その技術的熟達を単に目標とするので
はなく⁷⁾、テキストの読み書きを不公正な社会の現実
を生産したり変革したりする政治的实践と捉え、民主
主義社会の市民育成をめざす識字教育論である⁸⁾。そ
のため、この理論に基づいて社会科の授業を開発すれ
ば、教科書記述を不公正な社会の現実を生産したり変
革したりする政治的实践として学習させることができ
る。そうすれば、教科書記述が必ずしも中立で公平な
客観的真理ではないことを学習させ、そのあり方を再
考させることができるため、開かれた国家・社会の形
成者をよりよく育成できるのではないだろうか。

しかしながら、我が国では、識字教育としてのリテ
ラシー論にはあまり注目してこなかった⁹⁾。そこで、
本稿では、批判的リテラシー論への関心が高い米国¹⁰⁾
の社会科授業作りに注目してみたい。分析対象に取り
上げるのは、1989年、雑誌『学校再考 *Rethinking
Schools*』¹¹⁾に発表されたビル・ビゲローの実践報告「コ
ロンブス発見一過去再読一」である¹²⁾。この実践報
告を分析対象に取り上げる理由は、①この授業を作り
実践するにあたって批判的リテラシー論の理論的基盤
であるパウロ・フレイレの著作が参考にされていること¹³⁾、
②批判的リテラシー論の代表的な研究者である
アイラ・ショアがこの実践を高く評価していること¹⁴⁾、
の2点である。また、実践報告の発表年から推測す
ると、米国ではE.D. ハーシュの『文化的リテラシー
Cultural Literacy』¹⁵⁾が社会的な関心を集めている頃
であり、これに対抗的な理論に基づく授業が作られ報
告されても全く不思議ではない時期であると考えられ
る。

以上のような問題意識のもと、本稿では、批判的リ
テラシー論に基づくビル・ビゲローの実践報告「コ
ロンブス発見一過去再読一」を分析することによって、
教科書を活用して開かれた国家・社会の形成者を育成
する方法を具体的に示したい。

II. 批判的リテラシー論に基づく実践「コロンブス 発見一過去再読一」の実際

1. 実践「コロンブス発見」の授業目標 — 教科書記 述の政治的実践性 —

「コロンブス発見一過去再読一」は、オレゴン州ポー
トランドの高校教師であったビル・ビゲローが科目「合
衆国史」の授業開きとして行った授業実践の報告であ
る。この授業の目標は、「教科書が人々を欺く可能性
がある」¹⁶⁾ ことについて話し合うことである。つまり、
この授業では、教科書が真実の全部又は一部を隠した

り曖昧にしたりすることによって、不公正な社会の現
実を作り出している政治的实践であることを生徒に学
習させることがめざされているわけである。しかしな
がら、科目の授業開きで教科書の政治的実践性につ
いて話をしても、そのことをすぐに理解できる生徒はい
ない¹⁷⁾。なぜなら、生徒たちは、教科書を誰に対しても
中立で公平な客観的真理であると信じて疑わないから
である。そのため、ビゲローは、「教室のみんなが
共有するただ一つの知識かもしれない」¹⁸⁾ コロンブ
スのインディアス事業を教材に取り上げる。生徒たち
がよく知っているコロンブスを教材に取り上げ授業を
開発すれば、教科書が客観的真理ではなく政治的实践
であることをより実感的に学習させることができる。
それでは、コロンブスのインディアス事業に関する教
科書記述は、どのような点で「人々を欺く可能性があ
る」のだろうか。この点に関して、ビゲローは次のよ
うに述べている¹⁹⁾。

生徒たちが知らないことは、毎年毎年、教科書が事
実の省略等によって彼らを大きく欺いているというこ
とである。ある生徒たちは、コロンブスが三隻の船で
航海したことや船員たちが再び陸地を見ることができ
るか心配に思っていたことを習っている。他の生徒た
ちは、提督が上陸したとき彼らがインディアンと呼ぶ
赤い肌をもつ裸の人々に挨拶されたことを読み物や先
生から学び知っている。また、他の生徒たちは、コ
ロンブスが小さな装飾具を与え数人のインディアンた
ちをスペインに連れ帰り、フェルディナンド国王やイザ
ベラ女王にお見せしようとしたことを知っている。

これはすべて正しい。またコロンブスが数百人の
インディアン奴隷を捕らえスペインに送り、そこでほと
んどの人々が売られ、その後死亡したことも正しい。
またコロンブスが黄金探索の中で三ヶ月のノルマを果
たさず戻ったインディアの手は誰でも切り落としたこ
とも正しい。さらに、たった40年のスペイン統治下
でイスパニョーラ島に暮らしていた全人種の人々が地
球上から消し去られたことも正しい。

このように、コロンブスに関する教科書記述がすべ
て間違っているわけではない。コロンブスが奴隷貿易
を行ったことやスペイン統治によってイスパニョーラ
島の島民が絶滅したこと等、コロンブスのインディア
ス事業に関する真実の一部が伏せられ生徒たちに伝え
られているのである。コロンブスのインディアス事業
に関する教科書記述は、真実の一部を隠したり曖昧に
したりすることによって、生徒たちが先住民の文化
や権利に対して過大な関心を持たないようにしたり、
ヨーロッパ系移民によるアメリカ統治に疑問を抱かな

いようにしたりする政治的実践として機能しているわけである。批判的リテラシー論に基づく実践「コロンブス発見一過去再読」は、先住民の文化や権利に鈍感な社会の現実を作る可能性をもつコロンブスの教科書記述を題材にすることによって、子どもに教科書記述を客観的真理ではなく政治的実践として学習させることをめざしているわけである。

2. 実践「コロンブス発見」の授業展開 — テキスト批判学習 —

前節1では、実践「コロンブス発見一過去再読」が教科書記述を客観的真理ではなく政治的実践として学習させることをめざしていることを明らかにした。それでは、教科書記述を政治的実践として学習させるためには、どのような授業を展開すればよいのだろうか。本実践の授業展開は、次頁の資料1のように示すことができる。「授業記録」は、ビゲローの報告に基づき教師と生徒の発言や様子を再現した授業の詳細である。「パート」は、発表者がビゲローの報告に基づいて「授業記録」に挿入した学習の区切りである。「段階」は、批判的リテラシー論を視点にして発表者が「授業記録」に挿入した授業の段階である。

本実践は、10個のパートから成っており、大きく4つの段階に分けることができる。第1段階は、パート①②③の学習を通して、子どもが「共通知識の正当性を疑問視する」段階である。パート①では、教師が生徒のバッグ泥棒を演じることによって、「盗む」という言葉の意味が「他人の持ち物を無断で自分のものにする」ということを体験的に理解させている。パート②では、バッグ泥棒とコロンブスを暗示的に結びつける発問を行うことによって、コロンブスがインディアンの土地を無断で自分のものにしたことを把握させている。パート③では、バッグ泥棒の実演を視点にしてコロンブスの行為を「発見」以外の言葉で表現させることによって、アメリカ大陸の発見者という生徒が共通に持っているコロンブス像の正当性を揺さぶっている。このように、第1段階では、コロンブスがアメリカ大陸を発見したという共通知識の正当性を疑問視させる学習活動を組織することによって、コロンブスのインディアス事業という本単元の主題を設定するとともに、生徒の学習意欲を喚起しているわけである。

第2段階は、パート④⑤⑥の学習を通して、子どもが「テキスト批判の方法を理解する」段階である。パート④では、コロンブスが書いたサンチェス卿宛の手紙²⁰⁾を教材に取り上げることによって、先住民の正直で愛情溢れる気質、先住民に敬意を払うコロンブスの姿など、教科書の記述を裏付ける事実を子どもに提示し把握させている。パート⑤では、ハンス＝コニ

ングの『コロンブス—インディアス事業—』を教材に取り上げることによって、コロンブスが奴隷貿易を始めたり、先住民から黄金を搾り取る方法を考案したりしたという教科書が省略した事実を子どもに提示し把握させている。パート⑥では、生徒が教科書記述の批評文を作成する際の指針となる7つの探求課題、例えば「コロンブスを十分に理解する上で重要だとあなたが思う出来事のうち、教科書では何が省略されているか」「教科書は誰を応援していますか。それはどのようになされていますか」「教科書はコロンブスとインディアンの出会いをなぜそのように描写しているのでしょうか。あなたの意見を述べなさい」等の質問を提示することによって、権力作用の読み方問い方を子どもに把握させている。このように、第2段階では、「教科書を裏付ける事実の把握」「教科書が省略した事実の把握」「権力作用の読み方問い方の把握」という3つの技法を駆使すれば、教科書が分析できることを学習させることによって、テキスト批判の方法を子どもに理解させているわけである²¹⁾。

第3段階は、パート⑦⑧⑨の学習を通して、子どもが「テキスト批判の方法を活用する」段階である。パート⑦では、教師が準備した古い小学校教科書を学級全体で分析させることによって、コロンブスの航海の目的を「神」や「教会」等の言葉を交えて婉曲的に表現することが航海の侵略性を隠す働きをしていることを把握させている。パート⑧では、生徒が各自で行った小学校教科書の分析結果を交流させることによって、いずれの教科書でも奴隷貿易のことや黄金の搾取方法のことが省略されていることを確認させている。パート⑨では、生徒の分析だけでは明らかにならなかった教科書記述がもつ社会的機能について考えさせている。具体的には、「浜辺に旗を立て、裸で赤い肌のインディアンの土地を占領したコロンブスの冒険物語を若い読者に擦り込むならば、彼らは今日の世界について何を学ぶだろうか」という教師の問いかけによって、冒険物語の読者が先住民や非白人、非キリスト教文明の人々の文化を見下したり、彼らの権利を尊重しなかったりする危険性があることを考えさせている。このように、第3段階では、テキスト批判の方法を活用させることによって、コロンブスの教科書記述に見られる婉曲表現と事実の省略を把握させるとともに、そのことが作り出す民族的文化的な差別や排除の可能性について考えさせているわけである。

第4段階は、パート⑩の学習を通して、子どもが「批判的市民の自覚をもつ」段階である。パート⑩では、本単元の学習の意義をつかみあぐねている生徒の疑問・感想を紹介し、学習のポイントが何だったのか考えさせている。生徒の答えは掲載されていなかったが、

資料1「コロンブス発見一過去再読」の授業展開

段階	パート	授業記録(ただし()は教師や生徒の様子, []は創造的に復元した生徒の発言)
1 共通 識の正 当性を 疑問視 する段 階	① バッ グ泥 棒の 実演 を体 験す る	<p>T: (ニッキのバッグを手に持ちながら,) このバッグは先生のです。</p> <p>P: バッグは先生のではなくニッキのバッグです。先生がニッキのバッグを取るところを見ました。</p> <p>T: 違う, 違う。これは先生のバッグだよ。バッグの中身を全部見せようか。(バッグのチャックを開け, リップスティックを取り出し,) これは先生のリップスティックだよ。ほら, これが先生のバッグであることの証明です。</p> <p>P: (教師の挑発に対して, 生徒たちは控えめに怒っている。)</p> <p>T: もしこのバッグがニッキのであるならば, それはどうやったらわかるの。なぜみんなは, このバッグが先生のではないと断言できるのですか。</p> <p>P: 先生がバッグを取るところを見た。</p> <p>P: それはニッキのリップスティックです。</p> <p>P: 先生がリップスティックを使わないことは知っています。</p> <p>P: バッグにはニッキの名前が書かれたモノが入っています。</p> <p>T: もしバッグの中身についてテストをしたら誰がいい点を取るだろうか。ニッキそれとも先生。</p> <p>P: ニッキがいい点数を取るに決まっている。</p> <p>T: バッグの中身を買うお金を稼いだのは誰だろうか。ニッキそれとも先生。</p> <p>P: バッグの中身はニッキのものだから, お金はニッキが稼いだに決まっている。</p> <p>T: もし私がこのバッグを発見したと言ったら, 私のものになるだろうか。</p> <p>P: (小さく笑っている生徒がいる。誰も先生のバッグだとは思っていない様子。)</p>
	② バッ グ泥 棒の 意味 を理 解す る	<p>T: なぜ私たちは, コロンブスがアメリカを発見したと言うのだろうか。</p> <p>P: (先生が話を向けつつあることが何なのか考えている様子。)</p> <p>T: コロンブスが到着する前, その土地に住んでいる人々はいましたか。誰が土地のことをよく知っていましたか。誰が働いて土地の産物を作りましたか。</p> <p>P: (ニッキのバッグとインディアンの土地を結びつけ始めている様子。)</p> <p>T: コロンブスが新世界に到着して最初にしたことは何ですか。</p> <p>P: コロンブスは新世界の富を取った。</p>
	③ コロ ンブ スを 再評 価す る	<p>T: コロンブスがしたことを「発見」以外の言葉で表現すると, 何が相応しいだろうか。</p> <p>P: コロンブスは盗んだ。</p> <p>P: コロンブスは取った。</p> <p>P: コロンブスは剥ぎ取った。</p> <p>P: コロンブスは侵略した。</p> <p>P: コロンブスは征服した。</p> <p>T: 「発見」という言葉を使うことによって, コロンブスはどのような人物として評価されるのだろうか。</p> <p>P: コロンブスはアメリカ大陸の発見者として評価される。</p>
2 テキ スト 批判 の 方法 を理 解 する 段 階	④ 教科 書を 裏付 ける 事 実 を把 握す る	<p>T: 資料①を配るので読んでください。資料は, コロンブスが, アラゴン王国出納官で彼の後援者であったラファエル＝サンチェス卿に書いた1493年3月14日付の手紙です。</p> <p style="text-align: center;">資料①「ラファエル＝サンチェス卿宛の手紙」</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">我々に接しても安全だと分かり恐怖心がなくなるやいなや, 彼らはとても単純で正直で持ち物に全く執着しない人々です。彼らは持っている物が何であれ, 求められれば断りません。それどころか, 品物を持ち寄って私たちをもてなします。彼らは自分たちのことを後回しにして誰にでも大きな愛情を示します。彼らはまた, つまらないものと引き替えに非常に価値のある品々を与え, 何のお返しがなくても満足しています。…(中略)…私は, 少なからずの人々が期待するような, 人喰い人種は見ませんでした。反対に敬意や優しさに溢れた人々に出会いました。</p> <p>T: 君たちが小学校で習ったことを思い出してみよう。コロンブスが新世界から持ち帰ったものにはどのようなものがありましたか。</p> <p>P: オウム。</p>

<p>⑤ 教科書が省略した事実を把握する</p>	<p>P: 植物. P: 少量の黄金. P: コロンブスが「インディアン」と名付けた人々.</p>
	<p>T: 資料②を配るので読んでください. 出典はハンス=コニング『コロンブス—インディアス事業—』(1976) 84-85 頁です.</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">資料②「奴隷貿易」</p> <p>1495 年 2 月. スペインに戻る準備をしている補給船に, よい「分け前」を積み込み送り返すには時間が足りない. そのため, コロンブスは補給船を積み荷でいっぱいにする方法として大規模な奴隷襲撃に方針を転換した. 仲間(コロンブスとその兄弟, パートロームやディエゴ)は, 男性や女性, 子供を含む 1500 名のアラワク族の人々をかり集め, イザベラの中にある檻に閉じこめ男性や犬に見張り番をさせた. 船は 500 名までしか乗れないため, 最も体格のよい人々だけが積み込まれ海外に送られた. それから, 提督は, スペイン人に残りの奴隷の中から自分が好きなかだけ失敬してよいと伝えた. 誰にも選ばれなかった人々は, 彼らの檻から簡単に蹴り飛ばされた. (マイケル=デ=クネオという入植者の表現では)「彼らは, 乳児を落とし諦める女性や狂人のようにあらゆる方向へと走っていった. そして, 何マイルも休まずに走り, 山や川を越えて逃げた」という捕らえられた人々の恐怖があった.</p> <p>500 人の奴隷のうち, 300 人が生きてスペインに到着した. 彼らは, 町の助祭長であるドン=ジャン=デ=ホンセカによってセビリヤで売りに出された. このすばらしい聖職者は, 「彼らは生まれたばかりの赤ん坊のように裸ではあるが, 動物よりも煩わしくない」と報告している.</p> <p>奴隷貿易は, 奴隷がたいてい死ぬため, すぐに儲からないということがわかった. コロンブスは黄金に集中することに決められども, 「聖三位一体の名のもとに, 売ることが可能な奴隷はすべて送り続けよう」と書いている.</p> </div> <p>T: それでは, 今から第 2 次航海の一場面をロールプレイします. 先生がインディアンを演じます. 君たちはコロンブスを演じてください. コロンブスは, 大陸に黄金があると信じています. しかし, インディアンは黄金を調達していません. コロンブスは, 彼らが黄金を隠していると思っています. インディアンが「私たちは本当に黄金を持っていません. 私たちは日頃の生活に戻り, あなたは故郷に戻ってはいかがですか」とコロンブスに尋ねます. このインディアンの問いかけに君たちはどう答えますか.</p> <p>P: わかった. 故郷に戻ろう.</p> <p>P: あなたがたが持っている黄金をどうぞ私に持ってきてください.</p> <p>P: もし黄金を持って来なければ, あなたがたを監獄に閉じ込めますよ.</p> <p>P: 黄金を支払わないと拷問するぞ.</p> <p>T: ロールプレイの場面に関連する資料③を配ります. 読んでください. 出典はコニングの他の本です.</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">資料③「黄金の搾取システム」</p> <p>すべての男女, 14 歳以上の少年少女は, スペイン人のためにシバオ地方(架空の黄金畑)にある黄金を集めなければならなかった. スペイン人はホークス・ベルを計量器として使った. 3ヶ月ごとに, すべてのインディアンは皆に砂金でいっぱいになったホークス・ベルを持って来なければならなかった. 族長たちは, その量の約 10 倍の砂金を持ち込まなければならなかった. イスパニオラ島の他の州では, 25 ポンドの綿糸が黄金の代わりだった.</p> <p>銅貨が製造され, インディアンが貢ぎ物を駐屯地に持って行くと, 月が刻印された銅貨を受け取り, 首にかけて飾った. そうしていれば, 黄金を集める次の 3 ヶ月の間は安全だった.</p> <p>銅貨を持たずに捕らえられた者は誰であろうと, 両手を切断され殺された. これを示した古いスペイン絵画が残っている. インディアンは, 血が噴き出している腕の付け根に驚きそれを凝視し, ぎこちなく動きながら去っている.</p> <p>黄金の畑は存在しない. 彼らが黄金の装飾品の中に持っていたものは何でも手渡してしまうやいなや, 唯一の希望は小川の中で一日中働き, 小石の中から砂金を洗い出すことであった. それは不可能な課題だった. しかし, 山に逃げようとしたインディアンは, 犬に組織的に追いつめられ殺され, 他の人々が働き続けるための見せしめにされた.</p> </div>

		<p>この時が大量虐殺の始まりであった。アラワク族はキャッサバの毒で自殺した。同胞コロンブスが統治した 2 年間、イスパニオラ島民全体の人口のおよそ半分が殺されるか自殺するかした。その概算は、12 万 5 千人から 50 万人にのぼる。</p> <p>⑥ 権力作用の読み方方を把握する</p> <p>T: 君たちに取り組んでもらう研究課題は、小学校の教科書を探し、コロンブスやインディアンへの扱いについて批評文を書くことです。君たちに取り組んでもらう問いの一覧(資料④)を配布します。声に出して読み点検してください。</p> <p style="text-align: center;">資料④「批評文の作成指針となる探求課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教科書の説明は、事実上、どのくらい正確か。 ●コロンブスを十分に理解する上で重要だとあなたが思う出来事のうち、教科書では何が省略されているか。(例えば、インディアンの扱い方、奴隷狩り、黄金獲得の方法、インディアンに与えた全体的な影響) ●教科書はコロンブスの動機をどう説明しているか。それを本当の動機と比較しなさい。 ●教科書は誰を応援していますか。それはどのようになされていますか。(例えば、教科書はインディアンの扱いや奴隷を捕らえること、黄金の獲得方法やインディアンに及ぼす全体的な影響についてぞっとしていますか。) ●教科書の写真はどのような機能を果たしているか。コロンブスと彼の「インディアス事業」についてどのようなことを伝えていますか。 ●教科書は、コロンブスとインディアンの出会いをなぜそのように描写しているのでしょうか。あなたの意見を述べなさい。 ●人々が不正確な歴史の見方をもつことに関心を示す集団が私たちの社会にあると思いますか。 <p>T: 一つ一つの問いに答える必要はありません。これの問いは、批評文を仕上げる指針として使ってください。</p>
<p>③ テキスト批判の方法を活用する段階</p>	<p>⑦ 教科書分析の練習をする</p>	<p>T: 練習のために、先生の兄弟が小学校 4 年生の時にカリフォルニアで使っていた教科書『アメリカの自由物語』マクミラン社 1964 年版を一緒に分析します。教科書の抜粋を声に出して読んでください。</p> <p>T: 教科書 24 頁の「コロンブスはひざまずき神に感謝し、それから彼はフェルディナンド国王とイザベラ女王の名において島を占拠しました」という箇所を見てください。どのようなことが分かりますか。</p> <p>P: 「神」や「ひざまづく」等の表現が登場し、崇拜的な説明である。</p> <p>P: コロンブスの説明が非常に礼儀正しい。</p> <p>P: コロンブスが到着した土地には、あたかも誰一人として先住していなかったかのように描かれている。</p> <p>T: 教科書 26 頁の「国王と女王は、近くの教会に行く道を案内した。そこで神に対する賛美と感謝の歌が歌われた」という箇所を見てください。「神」や「教会」という言葉の役割は何だろうか。</p> <p>P: コロンブスの行為が全く間違っていなかったように感じられる。</p> <p>P: コロンブスに対する疑問や批判を回避することができる。</p>
	<p>⑧ 教科書分析の結果を交流し確認する</p>	<p>T: (課題提示から 1 週間後、)今日は君たちが書いた批評文を互いに紹介します。グループを作ってください。話し合いの後、「集合的文意」(批評文ではどのような主題が繰り返され、どのような重要な違いがあると思いますか)について書いてもらうので、メモを取っておいてください。</p> <p>P (マリアンの批評文): 「1492 年、コロンブスは青い海を航海した」彼はたまたま陸地にたどり着き、スペインの名のもとにその領有を大規模に主張した。次の日、コロンブスは浜に行った。ほとんど裸の「インディアン」はコロンブスに挨拶した。コロンブスは、インディアンを「自分を招き持っているものは何でも共有する」純粋な人々であるとわかった。コロンブスは「50 人のスペイン人がこのすべての人々を服従させることができる」と観察した。そして、私たちは、「1548 年までにインディアンはほとんどすべて絶滅した(『私たちの過去の影響』より引用)」と教えられた。その話はスイスチーズと同じくらいほぼ完璧である。コロンブスとスペイン人は「インディアン」を皆殺しにした。彼らは神秘的に消滅したり、病気が原因で死んだりしたのではなかった。</p> <p>P (『アメリカの精神』の発行者宛の手紙として書いたトレイの批評文): … (中略) …話題を一つに絞って話をわかりやすくしよう。コロンブスはどうか。あなたがたは人を欺いてはいないが、「彼らはカリブ海の人々にとても関心を持ったけれども、コロンブスと乗組員は彼らの中で平和的に暮らすことは絶対にできなかった」という一節は、コロンブスが全く間違っていなかったかのように思わせてしまう。平和的に暮らす</p>

		<p>ことができない理由は、彼らが奴隷を捕らえ、十分な黄金を持ち帰らない何千ものインディアンを殺したことである。… (中略) …/もしこの本で与えられる情報しか知らなかったならば、たくさんの友達が私をばかだと思つような過保護な見方をもつことになっていただろう。私は反対者によって提出された醜い真実を信じるつもりはない。なぜならそれはちょうどコロンブスのようであるから。そして、私は、8年生になって以来コロンブスが無害であると理解してきた。</p> <p>P (ポートランド公立学校の採択教科書を選んだキーリーの批評文) : … (中略) …事実上、捨てられる事実があることがわかった。何も作られていない。省略されただけである。章全体の中でインディアンについて触れたところは全くない。コロンブスが「インディアン」と呼ぶようになった理由を説明しているだけである。奴隷や黄金について説明している箇所は全くない。その本は私が言うとおりのインディアンについて言及していないので、もちろんあなたはコロンブス寄りである。本では、コロンブスがどのように膝まずき、どのようにして救われたことを神に感謝し、航海の成功を神にどのように感謝したのかが書かれている。</p> <p>T : 批評文を全体的に振り返り、集合的文意について書いてください。</p> <p>P (マシューの考えた集合的文意) : みんなで批評文を読むと、教科書に共通する状況が分かった。色々な出来事がうまく省略されていたので、「誰も行ったことのない場所に敢えて行く」コロンブスの冒険に味方したのだ。いわゆる本当の説明においては、厳しい暴力的な現実には突きつけられない。</p> <p>P (教科書が楽観的な理由を説明しようとしたジーナの考えた集合的文意) : 私たちの国により愛国的な感情を持たせる‘栄光物語’を発行者はただ刷り上げたように私には思われる。私たちのグループでは、政府がこのような暴力から若い生徒を守ろうとする可能性を考えた。私たちは、それがおそらく彼らの考えから最も遠いことの一つであるという結論を下した。我が国が偉大で力強く永遠に正しいものであると教えたいのだ。コロンブスが本当の英雄であると信じさせたいのである。私たちは、でたらめという餌を与えられている。私たちは、情報を配っているお手本を信じているので、事実疑問を抱かず、ただ渡された情報を吸収している。</p> <p>P (レベッカの考えた集合的文意) : もちろん、本の著者はおそらく全く問題ないと考えている。彼らは、アメリカを発見した人物の何が問題なのか考えないし、その上、アメリカについてよい心地になっている。しかし、このことに関して私がずっと欺かれてきており、誰か他に何かを知っていることが分かって、私は本当に憤慨しています。</p>
	<p>⑨ 教科書記述の社会的機能を考える</p>	<p>T : 浜辺に旗を立て、インディアンの土地を占領したコロンブスの冒険物語を擦り込むならば、若い読者は今日の世界について何を学ぶだろうか。白人は非白人を支配する権利をもっていることを学ぶのだろうか。権力や富が正しいということを学ぶのだろうか。もし君たちが「文明化」されているか、「よりよい」宗教を信仰しているかすれば、人々の土地を奪うことが正当化されるということを学ぶのだろうか。</p> <p>P : [冒険物語はコロンブス一行が先住民の人権を蹂躪したことを取り上げていないため、若い読者は他文化圏の人々の権利に鈍感になってしまうと思う。]</p> <p>P : [冒険物語は洋服を着るヨーロッパの文化と洋服を着ない先住民の文化を対照的に描いているため、若い読者は他文化を見下すようになると思う。]</p> <p>P : [冒険物語はコロンブスの行為をあまり悪く描いていないため、若い読者は白人がアメリカ大陸を統治してきたことに何の違和感も覚えないうる。]</p>
<p>4 批判的 市民の 自覚を もつ段 階</p>	<p>⑩ 学習を振り返る</p>	<p>T : この単元の学習を通して、「誰を信じればいいのかわからない」と思うようになった生徒もいます。その生徒の疑問・感想を紹介します。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>私はまだあれこれと思いをめぐらしています。私たちが1年生の時の担任の先生が語ったことを信じることができないならば、なぜあなたを信じるができるのでしょうか。もし彼らが人を欺いていたならば、なぜあなたが欺いていないと言えるのでしょうか。クリスがいかに恐ろしいか私たちに話したあなたの目的は何ですか。あなたはどのような関心を抱いて真実を私たちに語っているのですか。あなたが私たちから望んでいることは何ですか。</p> </div> <p>T : もし君たちが先生の立場ならば、この生徒の疑問にどのように答えますか。この授業のポイントは何だったのか、数分、時間を取るのを考えてください。</p> <p>P : [教科書には婉曲表現や事実の省略があるので、注意深く文章を読む必要がある。]</p>

	<p>P: [テキストは、誰に対しても中立公平な真理とでは限らない。だから、私たちは、この単元で学んだ方法を駆使して注意深く読む必要がある。]</p> <p>P: [私たちは教科書の字面だけでなく、その社会的機能も読まなければならない。]</p> <p>P: [私たちはテキストを批判的に読むことを通して、公正な社会のあり方について考えないといけない。]</p>
--	---

(Bigelow, W., "Discovering Columbus: Rereading the Past", Shor, I. & Pari, C. ed. *Education Is Politics*, Boynton/Cook Publishers, Inc., 1999, pp.100-109.をもとに筆者作成.)

おそらく「教科書をはじめテキストには、婉曲や事実の省略がある。だから、私たちは、テキストを注意深く読む必要があることを学んだ」とか、「テキストを批判的に読むことを通して、いつの間にか誰かを排除していないか考えないといけないことを学んだ」とか答えるのではないだろうか。このように、第4段階では、本単元の学習を振り返らせることによって、テキスト批判を通して民族的文化的な差別や排除の解決について考える、言わば「言葉と同時に世界を読む」²²⁾批判的の市民の自覚を培おうとしているわけである。

以上のように、「コロンブス発見—過去再読—」という実践は、子どもに「共通知識の正当性を疑問視させる」「テキスト批判の方法を理解させる」「テキスト批判の方法を活用させる」「批判的の市民の自覚をもたせる」という4つの段階を設定することによって、コロンブスの教科書記述に見られる婉曲表現と事実の省略が作り出す民族的文化的な差別と排除の可能性に気づかせその解決について考えさせる、典型的な批判的リテラシー論に基づく社会科授業となっている。「コロンブス発見—過去再読—」という実践は、テキスト批判の方法を理解・活用させることを通して教科書記述を政治的实践として学習させる批判的リテラシー論に基づくことによって、子どもに教科書記述の中立性・公平性を検討させ、開かれた国家・社会の形成者を育成しようとしているわけである。

Ⅲ. 教科書を活用して開かれた国家・社会の形成者を育成する社会科授業作りの論理

前章Ⅱでは、批判的リテラシー論に基づく実践「コロンブス発見—過去再読—」が教科書を活用して開かれた国家・社会の形成者を育成する社会科授業であることを明らかにした。それでは、なぜ批判的リテラシー論に基づいて社会科授業を作ると、教科書を活用すると同時に開かれた国家・社会の形成者を育成できるのだろうか。それは、批判的リテラシー論が次に示す2つの原理に基づく授業を開発することによって、教科書を活用することと開かれた国家・社会の形成者を育成することを両立させる社会科授業理論であるからで

ある。

第1の原理は、子どもにテキスト批判の方法を理解・活用させることによって、教科書記述を客観的真理ではなく政治的实践として学習させる授業を開発するというものである。教養主義に基づく現行の社会科は、国民や市民に最低限度必要な共通教養を修得させることをめざしている。その結果、教科書記述を誰にとっても中立公平な客観的真理として学習させるため、それが不公正な社会の現実を生産したり変革したりする政治的实践であることを学習させることができず、閉ざされた国家・社会の形成者を育成してしまう。それに対して、批判的リテラシー論は、「教科書を裏付ける事実の把握」「教科書が省略した事実の把握」「権力作用の問い方読み方の把握」というテキスト批判の方法を子どもに理解・活用させる社会科授業を開発する。その結果、教科書記述が不公正な社会の現実を生産したり変革したりする政治的实践であることを学習させることができるため、開かれた国家・社会の形成者を育成することができる。批判的リテラシー論は、子どもにテキスト批判の方法を理解・活用させて、教科書記述を客観的真理ではなく政治的实践として学習させる授業を開発することによって、開かれた国家・社会の形成者を育成することを可能にしているわけである。

第2の原理は、子どもにテキスト批判の方法を理解・活用させることによって、現行社会科の教育内容ではなく教育方法を改革する授業を開発するというものである。現行の教育内容を改革して開かれた国家・社会の形成者を育成する授業作りの典型が社会問題科である。社会問題科は、教育内容を教科書記述から社会問題に転換することによって、選択や判断、政策や制度という政治的实践のよりよいあり方を議論させ、開かれた国家・社会の形成者を育成する授業を開発する。その結果、教科書記述を教育内容に取り上げることができず、教科書を活用した社会科授業を作ることができなくなってしまう。それに対して、批判的リテラシー論は、教育方法を教科書記述の系統的学習からテキスト批判的学習に転換することによって、教科書記述を政治的实践として学習させ、開かれた国家・社会の形成者を育成する授業を開発する。その結果、教科書記

述を教育内容に取り上げることができるため、教科書を活用した社会科授業を作ることができる。批判的リテラシー論は、子どもにテキスト批判の方法を理解・活用させて、現行社会科の教育内容ではなく教育方法を改革する授業を開発することによって、教科書を活用した社会科授業作りを可能にしているわけである。

以上のように、批判的リテラシー論とは、子どもにテキスト批判の方法を理解・活用させる授業を開発することによって、教科書記述を政治的実践として学習させ、閉ざされた国家・社会の形成者を育成してしまう現行社会科の教育方法を改革する社会科授業理論である。それゆえ、この理論に基づいて授業を開発すれば、子どもに教科書記述の中立性・公平性を検討させることができるため、教科書を活用すると同時に開かれた国家・社会の形成者を育成することができるわけである。

IV. おわりに

本稿では、批判的リテラシー論に基づくビル・ビゲローの授業実践を分析することによって、教科書を活用して開かれた国家・社会の形成者を育成する方法を明らかにした。具体的には、批判的リテラシー論は、子どもにテキスト批判の方法を理解・活用させる授業を開発することによって、教科書記述を政治的実践として学習させ、閉ざされた国家・社会の形成者を育成してしまう現行社会科の教育方法を改革する社会科授業理論であることを明らかにした。最後に、批判的リテラシー論の意義と課題を、社会問題科と比べて示すと、次のように整理できる。

まず、批判的リテラシー論の意義は、開かれた国家・社会の形成者を状況即応的に育成できる点である。社会問題科は、社会問題を教育内容として取り上げる理論であるため、政策や制度を政治的実践として学習させることはできても教科書記述を政治的実践として学習させることができず、開かれた国家・社会の形成者を日頃の授業作りと関係なく状況超越的にしか育成できない。それに対して、批判的リテラシー論は、テキスト批判を教育方法として取り入れる理論であるため、教科書記述を政治的実践として学習させることによって、開かれた国家・社会の形成者を日頃の授業作りに即して状況即応的に育成できる。

次に、批判的リテラシー論の課題は、開かれた国家・社会の形成者をマイクロレベルでしか育成できない点である。社会問題科は、社会問題を教育内容として取り上げる理論であるため、選択や判断、政策や制度というマイクロ・マクロレベルの政治的実践を学習させるこ

とによって、開かれた国家・社会の形成者を両方のレベルで育成できる。それに対して、批判的リテラシー論は、テキスト批判を教育方法として取り入れる理論であるため、教科書記述の読み書きというマイクロレベルの政治的実践は学習させることができても政策や制度というマクロレベルの政治的実践を学習させることができず、開かれた国家・社会の形成者をマイクロレベルでしか育成できない。

以上のように、社会問題科が状況超越的にマイクロ・マクロレベルで開かれた国家・社会の形成者を育成する社会科授業理論であるのに対して、批判的リテラシー論は状況即応的にマイクロレベルで開かれた国家・社会の形成者を育成する社会科授業理論である。それゆえ、両方の理論に基づく授業を開発することによって、閉ざされた国家・社会の形成者を育成してしまう我が国の社会科の現状をよりよく改革できるのではないだろうか。社会問題科が開かれた国家・社会の形成者を育成する授業作りを教育内容開発研究のレベルで追究する理論であるとすれば、批判的リテラシー論は開かれた国家・社会の形成者を育成する授業作りを教育方法開発研究のレベルで追究する理論であると結論づけることができよう。

【註】

- 1) 教科書記述が誰に対しても中立公平な客観的真理ではないことを詳細に解明している研究には、アップル、マイケル W. 『オフィシャル・ノレッジ批判』東信堂、2007年、がある。
- 2) 小原友行「社会科における意思決定」社会認識教育学会編『社会科教育学ハンドブック』明治図書、1994年、167-176頁。
- 3) 溝口和宏「開かれた価値観形成をはかる社会科教育：社会の自己組織化に向けて」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第13号、2001年、29-36頁。
- 4) 池野範男「市民社会科歴史教育の授業構成」全国社会科教育学会『社会科研究』第64号、2006年、51-60頁。
- 5) 社会問題科には、他にも次のような研究がある。
 - ①今谷順重『新しい問題解決学習の提唱—アメリカ社会科から学ぶ「生活科」と「社会科」への新視点—』ぎょうせい、1988年。
 - ②吉村功太郎「合意形成能力の育成をめざす社会科授業」全国社会科教育学会『社会科研究』第45号、1996年、41-50頁。
 - ③佐長健司「議論による社会的問題解決の学習」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第13号、2001年、1-8頁。
 - ④拙著『中学校社会科の教育内容の開発と編成に

- 関する研究—開かれた公共性の形成—』風間書房、2013年。
- 6) 社会問題科の課題や限界を指摘した論文には、①前掲論文3)、②渡部竜也「社会問題科としての社会科」社会認識教育学会編『新社会科教育学ハンドブック』明治図書、2012年、93-99頁、などがある。①では現行の社会科では社会問題を取り上げ授業化することが制度的に困難であること、②では社会問題科の研究は盛んだが現実には子どもの学力向上に結びついていないこと、が指摘されている。日々の授業作りでは、社会問題ではなく教科書記述を教材に取り上げることが多いため、社会問題科がこのような困難を抱えてしまうことになっているのではないだろうか。
 - 7) 小柳正司『リテラシーの地平—読み書き能力の教育哲学—』大学教育出版、2010年、1-5頁及び142-163頁。
 - 8) 政治的実践の概念については、竹川慎哉『批判的リテラシーの教育—オーストラリア・アメリカにおける現実と課題—』明石書店、2010年、29-31頁及び41-43頁、を参考にした。
 - 9) 我が国の社会科教育研究の場合、メディア教育や歴史教育としてのリテラシー論に注目する研究はあったが、本稿のように識字教育としてのリテラシー論に注目する研究はなかった。例えば、吉田正生「メディア・リテラシー論による『情報産業学習』の転換—社会科と総合的な学習の融合単元づくりをととして—」全国社会科教育学会『社会科研究』第51号、1999年、21-30頁、及び原田智仁「歴史リテラシーの可能性(一)(二)」『中等教育資料』第799/802号、大日本図書、2002/2003年、46-47/46-47頁、などを参照されたい。
 - 10) 例えば、Reidel, M. & Draper, C. “Reading for Democracy: Preparing Middle-Grades Social Studies Teachers to Teach Critical Literacy”, *The Social Studies*, Vol.102, 2011, pp.124-131., Soares, L. & Wood, K. “A Critical Literacy Perspective for Teaching and Learning Social Studies”, *The Reading Teacher*, Vol.63, N0.6, pp.486-494. 等を参照されたい。
 - 11) 雑誌『学校再考 *Rethinking Schools*』は、非営利団体の *Rethinking Schools* が発行する季刊誌である。*Rethinking Schools* は、ミルウォーキーの教師や教育専門家が集まって1986年に結成した団体であり、民主的な多民族社会の土台となる公立学校の学校作りをめざしている。詳しくは、この団体のホームページに掲載されている“About *Rethinking Schools*” [<http://www.rethinkingschools.org/about/index.shtml>] 最終閲覧日 2013年5月31日、を参照されたい。
 - 12) Bigelow, W. “Discovering Columbus: Rereading the Past” という実践報告は、*Rethinking Schools*, Vol.4, No.1, 1989, pp.12-13. に初めて掲載された後、② Shor, I. & Pari, C. ed. *Education Is Politics*, Boynton/Cook Publishers, Inc., 1999, pp.100-109. に再録されている。本稿では、①を入手できなかったため、②を分析対象として取り上げている。
 - 13) *Ibid.*, p.109.
 - 14) Hirsch Jr., E. D., *Cultural Literacy: What Every American Needs to Know*, Houghton Mifflin, 1987. (中村保男訳『教養が、国をつくる。—アメリカ建て直し教育論アメリカの基礎教養5000語付き』TBSブリタニカ、1989年。)
 - 15) Bigelow, op.cit., p.100.
 - 16) Bigelow, op.cit., p.100.
 - 17) Bigelow, op.cit., p.100.
 - 18) Bigelow, op.cit., p.100.
 - 19) Bigelow, op.cit., p.101.
 - 20) コロンブスが書いたサンチェス卿宛の手紙を訳出するにあたっては、青木康征編訳『完訳 コロンブス航海誌』平凡社、1993年、286-301頁、を参考にした。
 - 21) テキスト批判の方法については、Bigelow, B. & Peterson, B. “Students as Textbook Detectives: An exercise in uncovering bias”, Au, W., Bigelow, B., Karp, S. ed. *Rethinking Our Classrooms, Volume1*, *Rethinking Schools Ltd.*, 2007. も合わせて参照されたい。
 - 22) Freire, P. & Macedo, D. *Literacy: Reading the Word and the World*, Routledge, 1987.